

## 外国語科（英語）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○○○○○</div> <div style="text-align: center;">○○○○○○</div> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <p>○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解することができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>○聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <p>○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <p>○単元などの時間のまとまりごとに、五つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるよう、どのような工夫をしているか。</p> <p>○文、文構造及び文法事項について、言語活動と効果的に関連付けて取り上げており、用語や用法の指導に偏ることのないよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○必要となる語彙を言語活動と効果的に関連付けて取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○図書の内容と一体のものとして、視聴覚教材などが相互に適切に関連が図られるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真等の資料にはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○字体、記号・符号、用語等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○文字の大きさ・行間等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	

<p>書名 項目</p>	<p><b>NEW HORIZON English Course</b></p>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>                  ○各単元で「Preview」の後の「Story」で本文を扱い、その概要や新出表現を理解させるようになっている。登場人物や話題が本文と関連した「Practice」にて代入練習を行い、新出表現を定着させるように工夫されている。                  ○「Story」の「Practice」の下に、話す・書く活動が設けられている。「Mini Activity」にて、聞く・話す・書く技能を身に付けさせるようになっている。「Let's」シリーズでは、目的・場面・状況を明確にして各領域に特化した活動を扱っている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>                  ○単元の「Preview」で目的・場面・状況を捉え、「Read and Talk」では3段読みで概要・詳細を理解・整理し、表現につなげている。また、「Stage Activity」では、「Unit Activity」で高めた表現力を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす構成になっている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>                  ○「Mini Activity」、「Unit Activity」、「Stage Activity」という順で、知識や技能を総合的に扱い、相手に配慮したコミュニケーションに結び付ける活動を取り入れている。SDGsに関連した今日的課題や世界に目を向けさせる話題など題材に工夫がある。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>                  ○各単元の最初のページには活動の目標が示され、単元末の「Unit Activity」の「CHECK」で振り返る形となっている。巻末の「CAN-DO リスト」には領域別の目標が示され、単元との関連が分かるように工夫されている。                  ○各単元に「Key Sentence」と「Practice」を設け、目的や場面に合う文法が使えるようにしている。単元末に「Grammar for Communication」を設け、新出文法と言語活動の関連が取り上げられている。                  ○言語活動において必要な語彙が「Tool Box」「Stage Activity」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」で発信語彙を太字で表記している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、「目的や場面、状況に合わせてコミュニケーションをしよう」や「学習の見通しを立てよう」があり、何を学習するのか見通しが立てられるように工夫がされている。巻末の「Word Room」では、ジャンル別の補充単語・表現が掲載されている。                  ○各単元内のセクションごとにQRコードが掲載され、単語や本文の文字とその音声、スライドアニメをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生全編で独自の手書き文字に近い書体を使用し、2、3年生は手書き文字に近い書体と活字体を併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が水色で併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「Preview」で単元の場面などを想起し、単元後に配されている「Stage Activity」に向けて「Mini Activity」「Unit Activity」で学習を積み上げていく構成になっている。1年生の早期に「話す」「聞く」活動を通して小学校で扱った表現を取り上げている。また、高校以降の学習に備え段階的に読む語数を増やす構成としている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;"><b>SUNSHINE ENGLISH COURSE</b></p>	<p style="text-align: center;">9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元では、「Scenes」のマンガを見ながら新出表現を視覚的に理解できるように工夫がされている。また、「Scene」の1～3までのストーリーはつながっており、単元で学ぶ新出表現をまとめて導入することもできるようになっている。</li> <li>○各単元の「Scenes」で理解した表現を「Listen」、「Speak」、「Write」の3段階の活動を通して使い方に慣れ、各技能を伸ばすことができるようになっている。「Steps」では発信の技能を身に付け、「Our Project」につながる仕組みになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の「Think」で内容を整理し、「Retell」で発表し、「Interact」で必然性のある場面設定でのやり取り、「Reading」の終わりに自己表現活動がある。また、「Our Project」では、「Program」の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Interact」や「Our Project」では自分の考えをもたせた上で、目的や相手を意識したコミュニケーション活動を通して、相手にわかりやすく伝える力をつける工夫がされている。日本の伝統文化、国際理解を深める題材やSDGsに関連した題材等、多面的かつ世界的な視野で取り上げられている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元最初のページの「Goal」で単元の目標が記され、各目標が単元内のどの活動と関連しているかマークで示されている。巻末には「英語で『できるようになったこと』リスト」として領域ごとの3年間の目標が設定されている。</li> <li>○各単元に「Scenes」を設け、新出文法がどのような目的や場面で使われるのか視覚的に示している。「Interact」では、当該単元で学んだ表現を使って言語活動を行う構成になっており、新出文法と関連付けられている。</li> <li>○言語活動に必要な語彙が「Word Box」「Steps」等に取り上げられている。「New Words」の発信語彙は太字、受容語彙は一般語彙と感嘆語、短縮形等に分けて表示している。</li> </ul>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には各単元の構成が示されており、学習の見通しが持てるように工夫されている。各単元の「Scenes」では、イラストとともに学習する言語材料が掲載されている。巻末の「アクションカード」には表現活動に活用する語彙や表現が掲載されている。</li> <li>○各単元のセクションごとにQRコードが掲載され、本文の音声とスライドをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生前半は独自の手書き文字に近い書体、後半は活字体に近い書体を使用し、2、3年生は、活字体とブロック体を併用している。各学年共通でアクセントは各単語に水色で付記し、発音記号は巻末資料に掲載してある。</li> </ul>	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は、基礎・基本を習得し、題材について考え、自分の言葉で本文を語り、自己表現する力を身に付けるという流れで学習し、「Our Project」で5領域の統合的な活動につなげる構成となっている。また、小学校英語で学んだ表現を帯活動等で繰り返し使う機会を設けている。3年生では、論理的な説明文や1000語超の物語文を読む機会を設けている。</li> </ul>	

書名 項目	<b>NEW CROWN English Series</b>	15 三省堂
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の「GET」における「POINT」では、その解説文とともに文法事項や文構造を整理・理解させるようになっている。「Drill」において、「POINT」の文の語句を入れ替えながら繰り返し練習し、基礎的な力を身に付けさせる仕組みとなっている。</li> <li>○「GET」で学んだ知識を用いて、「Listen」で聞く力を、「Speak」「Talk」「Write」で新出文法を含む英文を使って発信する力を身に付けさせるようになっている。「Get Plus」では、実際のコミュニケーションで活用する力を養うようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の「Use」では、意見・説明・物語文で構成された「Read」で情報を整理し、「Speak」と「Write」で目的や場面、状況に応じた自己表現活動がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「USE Speak」や「USE Write」、「Project」において目的や場面・状況に応じて相手意識をもたせ、互いを認め合いながら表現できるようになっている。「ことばを使う」、「かかわる」、「考える」、「学ぶ」を軸に選ばれた異文化理解や伝統文化等の題材を通して、SDGs等の現実の様々な課題に対応できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○裏表紙には領域ごとに育成したい目標が「What Can I Do?」で示されている。各単元の最初のページには活動内容や活動目標が示されており、学習の見通しを立てることができるように工夫されている。</li> <li>○各単元の「GET」の中に「Talk」や「Speak」の活動を入れ、新出文法を用いた言語活動を行うようになっている。「GET Plus」における場面設定を明確にした言語活動と、次ページの「文法のまとめ」における新出文法との関連付けがされている。</li> <li>○言語活動において必要な語彙が「Word Bank」「Idea Box」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words」において、発信語彙を太字で示している。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には「この教科書のしくみ」とともに学びのサイクルや身に付けたい力を視覚的に意識できるようになっている。巻末には「会話を進める表現」「ロールプレイシート」を掲載し、発信力を高めるように工夫されている。</li> <li>○各単元のセクションごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声や実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生から独自の書体、UDフォント、ブロック体、活字体を段階的に使用し、2、3年生は併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は、基礎の習得から各領域の活動を通して活用する力を身に付ける構成になっている。1年生の「Lesson」の導入は、小学校で体験した場面での対話や発表を聞いて学びを振り返る設定になっており、小学校との接続を意識した内容となっている。また、3年生の最長の読み物教材は高校で扱われる英文を意識した語彙数となっている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">ONE WORLD English Course</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の「Key Sentence」では、新出文法を扱った例文が示され、その右側の「Notes」では意味・形・用法が説明されている。また、「Tool Kit」では、例文で使用されている語句を入れ替えながら練習し、新出文法の定着が図れるようになっている。</li> <li>○各単元の「Think &amp; Try!」では、当該単元で学習した本文の一部を活用し、話したり書いたりする表現活動が設定されている。「Tips」のコーナーでは、5領域それぞれの技能を高めるためのコツが紹介されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の各「part」で目的・場面・状況を捉え理解を深め、情報整理の「Review」、発表の「Task」、自己表現の「Think &amp; Try!」がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「Project」では、既習の知識・技能を総合的に活用し、グループなどで他者と協働を通して課題を達成していく活動ができるようになっている。SDGsとの関連も含めて世界の多様なあり方と課題について自分のこととして向き合う題材が取り上げられている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末には「CAN-DO 自己チェックリスト」があり、各領域の目標ごとに関連単元等が示されている。単元末に単元目標の達成状況を振り返ることができるように工夫されている。</li> <li>○単元末の「Think&amp;Try!」では新出文法を用いた言語活動を行えるようになっている。また、「Task」では、学んだ言語材料を用いて5領域の統合的な活動を行うことで、新出文法と関連付けられるような構成となっている。</li> <li>○言語活動に必要な語彙が「Tool Kit」「Tips」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words&amp;Phrases」で発信語彙の中から「特に覚えない語」を太字で示している。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には学びの流れが示され、学習の見通しが立てられるような工夫がされている。巻末の「Activities Plus」では、マスキングシートを活用して、重要な語句や文、表現を学習できるように工夫されている。</li> <li>○各単元の最初のページにQRコードが掲載され、本文の音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生初期からUDフォント、ブロック体、ローマン体を併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元において三つの「Part」を通して学んだことを巻末の「Activities Plus」を活用して確認、定着をさせ、「Project」において5領域の統合的な活動を通して自己表現をするという構成となっている。1年生では小学校で学んだ表現をゲーム等の活動で復習する「Springboard」があり、小学校との接続が意識されている。</li> </ul>	

書名 項目	<b>Here We Go! ENGLISH COURSE</b>	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光 村</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元は「Part」ごとに分かれ、「Listen」、「Speak」、「Write」コーナーの各活動を行なった後、「基本文」を扱うことで使いながら学んできた新出文法を確かめたり整理したりすることができる構成になっている。</li> <li>○各「Part」の本文、「Listen」、「Speak」、「Write」の言語活動は各単元の一貫したCAN-DO形式の目標が設定されている。巻末の「Let's Talk」は、継続的に扱うことで、やり取りや発表の際に用いる表現の練習ができる教材となっている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の各「part」で目的・場面・状況を捉え理解を深めた後、情報整理、発表の「Goal」、自己表現の「About You」がある。また、「You Can Do It!」では、「Unit」の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元末の「Goal」と「You Can Do It!」では学んできた知識・技能を使い、複数の領域を横断した活動に取り組み、グループで協働学習できるようになっている。多様な考え方の理解、文化、人権などSDGsとの関連も含めて様々な題材で構成されている。</li> </ul> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の最初のページに領域の単元目標が提示されており、単元末の「Goal」の言語活動を通して目標達成について振り返る構成となっている。巻末の「CAN-DO List」には、領域ごとの目標とそれに関連する単元が示されている。</li> <li>○各「Part」に「Speak」を設け、学んだ表現を活用する目的や場面が分かるよう工夫されている。単元末の「Active Grammar」では、当該単元で学んだ表現を活用する具体的な状況を設定し、文型・文法と実際の使用場面との関連が取り上げられている。</li> <li>○言語活動に必要な語彙が「Word Board」「Goal+」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「New Words」において、発信語彙を太字で示している。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭には教科書の構成とともに3年間を通しての到達目標が示されており、学習の見通しが立てやすくなっている。巻末には「Let's Talk!」が付属しており、場面に応じて会話をする力が付けられるようになっている。</li> <li>○各単元の「part」ごとにQRコードが掲載され、本文の音声やスライドアニメ、実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生初期は独自の手書き体を使用し、その後、ブロック体、セリフ体を併用している。1年生においては、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が青色で併記されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文の内容は3年間ひと続きのストーリーから成っており、登場人物の成長を通して、本文の内容に生徒が共感しやすい内容となっている。小学校との接続を意識して、1年生巻頭では、全て小学校で学んだ語句と表現で構成されている。3年生では高校の学習への目標をもてるよう「英語のトレーニングを続けていこう」のページがある。</li> </ul>	

<p>書名 項目</p>	<p><b>BLUE SKY English Course</b></p>	<p>6 1 啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>          ○各単元の「Target」では新出文法を含んだ例文が解説とともに示されている。「Practice」や「Use」では、「Tool Box」の表現とともに新出文法の形に慣れるための発話練習を行う仕組みになっている。          ○各「Part」において、学習の流れが統一されており、一貫した形で新出事項を理解させるようになっている。「Let's」シリーズでは、「話す」「聞く」「読む」の各技能を、身近な場面や状況に設定して学習できるよう工夫されている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>          ○単元の各「Part」で目的・場面・状況を捉え、「Read and Think」で整理した情報をもとに自分の意見や考えを持ち、「Express Yourself」で自己表現する機会がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</p> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>          ○「Use」、「Express Yourself」、「Project」では、自分の意見や考えについて他者を意識しながら伝え合う学習ができる構成になっている。各学年人権、福祉、自然など外国の話題について取り上げ、SDGsとの関連も含めて自国との相違点に気付かせるなど国際理解や異文化理解を深められるようになっている。</p> <p><b>&lt;聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>          ○各単元の扉には各「Part」の目標が示されている。巻末には領域ごとの「Can-Do リスト」に3年生までの達成目標が示されており、学習の見通しがもてるよう工夫されている。          ○各「Part」に「Practice」「Use」を設け、新出文法を使った言語活動に取り組めるようになっている。「Target のまとめ」の「Let's Try」では、テーマについて学んだ表現を用いての言語活動が設定されており、新出文法との関連付けがされている。          ○言語活動に必要な語彙が「Tool Box」「Notes」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words」で、特に身に付けたい語彙を「必修重要語」として太字で示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には教科書の使い方が示されており、学習の進め方が視覚的に分かるようになっている。巻末には「Word Box」が掲載されており、場面に応じた表現力が高められるようになっている。          ○各単元の「Party」ごとにQRコードが掲載され、単語や本文の文字と音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生はUDフォント、2年生はブロック体と活字体を併用、3年生は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元で新出表現を含んだ本文を読んで理解を深め、自己表現をする活動を行った後、「Project」において5領域を統合的に活用する活動へつなげる構成となっている。1年生の巻頭では小学校で学んだ語彙・表現を用いて学習を行い、定着を図る構成になっている。3年生にはディスカッションや長文作文の活動があり、高校への接続が意識されている。</p>	

外国語科（英語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	174	172	186	176	190	158
	2年	166	172	178	178	190	166
	3年	162	164	186	178	190	150
2 新出総単語数	1年	1004	1005	1131	1109	960	867
	2年	714	563	890	575	605	659
	3年	649	538	540	483	623	439
	合計	2367	2106	2561	2167	2188	1965

○領域別教材数等（言語活動）について

※ 2は3の合計 3③は言語活動と本文を合わせた教材数

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館	
1 単元数 (Lesson, Program, Unit 等)	1年	11	10	8	9	8	10	
	2年	7	8	7	9	8	8	
	3年	6	7	7	7	8	6	
2 総教材数	1年	215	193	153	140	165	199	
	2年	208	183	144	145	186	190	
	3年	175	159	127	116	157	147	
3 領域別教材数	① 主に聞くこと	1年	55	53	32	53	66	41
		2年	15	46	26	49	71	37
		3年	17	40	23	29	60	27
	② 主に読むこと	1年	38	21	29	43	32	35
		2年	53	17	35	55	43	33
		3年	37	15	34	58	30	28
	③ 主に話すこと【やり取り】	1年	45	58	43	19	32	60
		2年	37	53	36	12	33	39
		3年	29	48	27	6	32	30
	④ 主に話すこと【発表】	1年	26	12	12	14	6	26
		2年	37	16	15	15	8	46
		3年	38	11	18	12	9	33
	⑤ 主に書くこと	1年	51	49	37	11	29	37
		2年	66	51	32	14	31	35
		3年	54	45	25	11	26	29

○文種別教材数（本文）について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 物語・詩	1年	1	1	1	4	1	2
	2年	2	1	2	2	1	1
	3年	2	1	2	1	1	1
2 説明文・意見文・感想文	1年	9	0	14	7	4	6
	2年	22	10	14	13	11	16
	3年	20	14	15	16	21	14
3 対話文・スキット	1年	34	33	11	20	24	34
	2年	12	25	15	20	23	23
	3年	9	17	15	12	13	18
4 その他 (伝言・手紙・メール文を含む)	1年	5	1	11	2	5	0
	2年	7	1	5	3	6	1
	3年	5	2	5	4	3	2

○その他

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 世界の人々や日本人の日常生活や風俗習慣に関する題材	①クリケット、朝食、サッカー、ニュージーランドの生活、日本の夏祭り、シドニーフェスティバル、フィリピン、世界的な課題、ロンドンの年越し、日本の正月 ②福井、シンガポールの生活、海外旅行のおみやげ、日本と外国の食文化、AI アメリカの生活、日本の習慣やマナー、ユニバーサルデザイン、映画 ③世界の言語、パラリンピック、防災、投票、日本の文化、国際協力、食品の選択	①ジュニア・セーフティ・パトロール、世界の果ての通学路、フィンランド、正月 ②屋台、ごんぎつね、日本のポップカルチャー ③日本の弁当文化、睡眠、手話、AI、イグノーベル賞	①インドの文化、ロンドンの文化、アメリカの学校生活、車いすバスケット、マニフェスト、アリス、すし ②ピーターラビット、日本の文化、星の王子さま、世界の暮らし ③音楽、まんが、インドの生活、英語の名言	①オーストラリアの学校生活、北海道の自然、ビクトグラム ②しまなみ海道、松山市、ジェスチャー、サンタラ ③赤毛のアン、オリンピック、アメリカのニュース報道	①世界の中学生 ②ニューヨークへの旅行、地震への備え、富士五湖、日本の絵文字文化 ③世界中の学校生活、AI テクノロジーと言語	①金沢市、アメリカの学校生活、アメリカの食事 ②シンガポールのマナー、ニュージーランドで人気のスポーツ、日本の町おこし ③世界の食文化、オリンピック

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
2 世界や日本の伝統文化に関する題材	①日本の伝統文化に取り組む外国人、落語 ②ブロードウェイミュージカル ③俳句	①書道・かるた	①神社、落語、風呂敷・花火・うどん ②中国茶、落語	①日本の中にある海外文化マング文化 ②日本の建築物、鎌倉の大仏、ハロウィーンとお盆 ③異文化交流、日本料理	①お正月 ②日本の伝統文化紹介、アボリジニー ③韓国の文化、世界の中学生の環境を守る取り組み	①マンガ文化 ②ニュージーランドのマオリ族、秋田県の竿燈祭、新潟県の長岡祭り、スペインのトマト祭り、タイの水かけ祭り ③日本の伝統文化紹介
3 世界の地理や歴史に関する題材 (平和に関する学習を含む)	①ロンドンの名所、富士山 ②時計の歴史、世界遺産、原爆、ガンディー、八田與一	①オーストラリア ②人種差別、日本とトルコの友好、原爆、佐々木禎子、杉原千畝 ③バスケットボール、忠実な象、チョコレート の歴史、マララ・ユスフザイ	①オーストラリア、ニュージーランド ③佐々木禎子、人種差別、A Moment of Peace	①アメリカの自然 ②グランドキャニオン ③カナダ、第二次世界大戦、国際支援、広島平和記念公園	②オーストラリアの面積と人口、ウルル、グレートバリアリーフ、アボリジニアート、世界遺産巡り ③広島平和記念公園	①ニューヨーク ②国の面積・平均寿命ランキング ③ライト兄弟、月面着陸、広島平和記念公園
4 自然科学に関する題材	①世界の水問題 ②アラスカの環境問題 ③食物連鎖、レッドリスト、エネルギー	②パンフ国立公園、生物をヒントにした技術 ③海のゴミ問題	①グリーンフェスティバル、富士山 ②ワルカ・ウォーター・プロジェクト ③自然から学ぶ	①環境問題(ゴミ処理、温暖化) ②動物の生態、再生可能エネルギー ③環境問題(野生生物)	③絶滅危惧種、環境問題(プラスチックゴミ)	②動物の生態 ③野生動物の保護
5 最長読み物教材 総単語数( )は 付録読み物	①230(260) ②397(323) ③509(589)	①243 ②294 ③346(1006)	①198(132) ②355(223) ③473(410)	①231(343) ②340(539) ③615(602)	①112(155) ②396(214) ③517(465)	①127 ②463 ③440
6 スピーチの取扱い	①6 ②9 ③14	①6 ②11 ③11	①9 ②8 ③8	①12 ②8 ③6	①6 ②8 ③10	①3 ②8 ③10
7 文法事項の説明 に関するページ数	①10 ②6 ③6	①10 ②8 ③7	①9 ②7 ③7	①12 ②9 ③6	①6 ②9 ③2	①10 ②6 ③5

※①は1年生、②は2年生、③は3年生を表している。